

地域活性化関連：参考事例

「エミュー」の活用 (北海道網走市)

東京農業大学オホーツク校が中心となり、オーストラリアの国鳥である「エミュー」の生産を行い、食品・化粧品などの商品開発を通じた新規産業モデルを構築中

「農家蔵」の保存・活用 (青森県平川市)

NPO法人「尾上蔵保存利活用促進会」が中心となり、農業用の蔵を観光資源として活用し、グリーン・ツーリズムなどを展開

「昭和の町」づくり (大分県豊後高田市)

商店街の街並みの「古さ」を逆手にとった「昭和30年代」をコンセプトとしたまちづくりを行い、観光客数の大幅なアップに成功

「学生による手作りライトアップ」 (秋田県秋田市)

秋田県内の歴史的建造物などのライトアップを、芸大の学生を中心に「携帯ライト」を用いて実施。今後、さらに一般市民を巻き込んだ取組を展開予定

「やねだん」 (鹿児島県鹿屋市串良町)

人口300人弱の柳田(やねだん)町内会が、公民館長の豊重哲郎氏を中心に、遊休農地を活用したサツマイモ栽培やそれを活用したオリジナル焼酎の販売などにより、行政に頼らない集落づくりを展開

「高校と大学の連携」 (山形県米沢市)

山形大学工学部は、工業高校等を卒業し、地元企業に就職した若者を大学院に受け入れる制度を創設し、地域を支える人材を育成する取組を展開

道の駅による地域活性化 (栃木県小山市)

道の駅の店長として百貨店の職員を招き、民間のノウハウを活かした経営を行うとともに、他の職員のスキルをアップさせ、高い売上を達成

「サン奄美」

(鹿児島県奄美市)

離島の女性グループが一口15万円×20人=300万円を出資し、有限会社「サン奄美」を設立。小規模農家から農産物を現金で買い取り、タケノコなどの地元特産物の加工販売などを実施

「小田原手形」

(神奈川県小田原市)

地域内の60店舗以上で割引サービス等を受けられる「小田原手形」を製作。あわせて、さらなる交流の拡大を目指し「小田原井」の開発・販売なども展開中

「町主導」の活性化 (島根県邑南町)

町役場が主導し、牛肉などのネット販売、直売所の運営、ケーブルテレビの開設などを行い、多面的な活性化に向けた取組を展開

とうもろこしに挑む

人口500人の村

(長野県平谷村)

人口500人の山間集落が、冷涼な気候を活かし、とうもろこしを栽培し、加工品などを販売

